

# 英語表現Ⅱ アクティブ・ラーニング

## 「深い学び・対話的な学び・主体的な学び」へ導く試み

細井 基延

### 1. はじめに

文部科学省は、次期学習指導要領について平成32年度から年次進行で実施していくことを提示しました。（中央教育審議会 教育課程部会 資料3（平成28年8月26日））

改訂の基本方針の中で、社会において自立的に生きるために必要な「生きる力」を育むという理念のさらなる具体化を図るため、学校教育を通じてどのような資質・能力が身につくのかを次の3つの柱に沿って明確化しました。

- ①生きて働く「知識・技能」の習得
- ②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
- ③学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養

また改訂の方向性として、「何ができるようになるか」、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」というキーセンテンスを3つ提示しています。3つ目の「どのように学ぶか」について「アクティブ・ラーニング」の視点からの学習の仕方の改善を図っていくことが今後学校現場に求められることになると考えられます。

。昨今よく耳にするアクティブ・ラーニング(主体的・対話的で深い学び)ですが、文部科学省の用語集から抜粋すると次のようになります。

#### 【アクティブ・ラーニング】

教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。

今年度4月当初からアクティブ・ラーニングを意識して取り組んでいる英語の授業内容について実践報告します。拙い授業ではありますが、今年度の試みが今後求められる教育内容にどの程度当てはまっているのか、あるいは足りないことがたくさんあるのかということを考えてみます。深い学び、対話的な学び、主体的な学びに焦点を当てて授業を検証してみたいと思います。

### 2. 単語集を使った対話的な学び

私は数年前まで単語の小テストを実施することで生徒の単語力いわゆる語彙を増やそうとしてきました。生徒は少しでも良い点を取ろうと努力して一生懸命覚えてきましたが、数日が過ぎると単語の意味をすっかり忘れてるのが現実でした。忘れないように家で何度も同じところを勉強するように勧めましたが、実際に家で繰り返し学習ができた生徒はほとんどいませんでした。

どうすれば生徒の語彙を増やすことができるのか、いろいろ考え、試行錯誤の末、テストによって覚えさせるのではなく、授業中に全員で音読して覚えていくという方法にたどり着きました。そこで6年前から授業中の単語の小テストをやめて、その時間を生徒と一緒に音読することに使いました。最初は5分間で読めるところまでひたすら読んでいました。しかしこれでは繰り返し勉強することになりません。そこで毎回進むのは1ページずつ、次のようにしました。

ある日の例 8・7・6・5ページ

次の日の例 9・8・7・6ページ

毎日少しずつですが繰り返し勉強するので語彙量は増えていきましたが、ひと月くらい経過して意味の確認をすると、生徒は結構忘れていました。どうすれば、単語の意味の定着化が図れるのかいろいろ悩んでいたとき、ある英語の研修会に参加する機会

がありました。その研修会の講師の先生は、当時私が使用していた単語集の著者のひとりで、研修会終了後、幸運にも個別に話をする機会がやってきました。そこで自分の実践内容、すなわち単語の小テストは行わず、単語集を一定のページ数を音読すること、音読終了後、単語を教師が読んで意味のわかる生徒が競って答えるというやり方で生徒の語彙を伸ばそうとしていると報告したところ、講師の先生から、「いわゆる小テストをしていなくても、覚えているかどうかの確認を全員の生徒に向かって行っているのだから、生徒がどの程度覚えているかを把握することができている。だから、生徒の弱点を把握して単語指導していくという観点では、小テストをしている場合とほぼ変わらないであろう。」という一定の評価をもらいました。また、「1回限りの小テストに比べれば、毎日繰り返し同じページを音読しているほうが定着率は向上するかもしれない。そう考えると音読を繰り返すほうがよい場合も大いにあるかもしれない。」という話を聞き、少し安心しました。

その先生から、「音読の仕方いろいろあるけれど、毎日1ページずつ進んでいくのではなく、2の2乗の日に同じところを勉強するとより効果的である。」というアドバイスもあり、目から鱗が落ちる思いでした。すなわち、

8・7・6・5ページ

のように1ページずつ機械的に順番に音読するのではなく、

8・7・5・1ページ

次の日 9・8・6・2ページ

のように進めていくことで単語の意味を忘れかけたときにやり直すことができるようになるということです。

音読該当ページ表

1日目	1								
2日目	1	2							
3日目		2	3						
4日目	1		3	4					
5日目		2		4	5				
6日目			3		5	6			
7日目				4		6	7		
8日目	1				5		7	8	
9日目		2				6		8	9

※8日目以降は毎回4ページずつ音読します。

3年ほど前から、このようなページを飛ばして音読していくやり方が授業の中で定着していますが、今年になって毎時間の意味の確認作業に変化が生まれました。そのきっかけとなったのが、本校で毎年行っている高大連携事業でした。大学の教授に年1回英語の授業をしていただくのですが、その時の授業で「単語は友だちとクイズ形式で問題を出し合えば覚えるものだ。」ということを知り、毎日の授業の単語練習の確認作業をペアワークあるいは3人グループで行えばいいのではないかと思いました。これまでのやり方は、教師から生徒に問いかけ、わかる生徒が答えるものでしたが、翌日、実際にやってみると、時間はいつもよりかかるものの、生徒たちはより生き生きと活動しました。この活動には音読を含めて約10分が必要です。毎回単語の勉強だけに10分使うことは、かなり勇気がいるのですが、生徒の語彙が増えることを期待して続けていきたいと思っています。

### 3. 教科書を使った主体的な学び

英語表現の教科書というものは、教科書作成者のねらい通りに使用していけば、確実に英語の表現力をつくように作られています。しかしながら、いかにして主体的に学ぶように生徒を導くことができるか、現在行っている教科書を使った英作文指導についてお話しします。

まず導入です。モデル文の意味理解をしてから音読します。日本語を聞いて教科書を見ながら音読します。次に教科書を見ないで日本語を聞いて英語を言わせます。さらに、日本語なしで全員で声を合わせてモデル文を言わせます。最初はかなりゆっくりでないと行うことができませんが、繰り返し練習しているとそれなりのスピードで言えるようになります。ある程度のスピードで英語を言うためには頭の中で話の次の展開を思い浮かべないと、スムーズかつスピーディに英語を言うことができません。逆の見方をすれば、ちゃんと英語が言えるということはこれから話す内容をしっかりと考えているということです。

日本語を聞いて教科書を音読

→日本語を聞いて教科書なしで音読

→日本語なし・教科書なしで一斉音読

いよいよ展開です。モデル文の練習が一通り終了するとそのレッスンでポイントとなる文法項目について簡単に説明します。例えば、第4文型 SVOO と第5文型 SVOC について説明する場合

S(主語)になる品詞の確認→名詞

V(動詞)になる品詞の確認→動詞

O(目的語)になる品詞の確認→名詞

C(補語)になる品詞の確認→名詞または形容詞

文型と同時に品詞の確認もしたうえで、教科書掲載の例文の音読と意味の確認をします。教科書の構成通り、Drill を解かせ、答え合わせをします。次に、Drill で解答した文の音読2回、日本語の意味を聞いて音読1回行います。

Drill の活用は本来ここまでですが、「主体的な学び」「対話的な学び」を意識してターゲットとなる文を利用して、オリジナルなダイアローグを2人1組で作ります。

ダイアローグ作成要領は、Drill で勉強した文章の中から少なくとも1文をそのまま引用して、自分のパートナーと相談しながら、作り上げていきます。例えば、Could you lend me your bicycle? — Sure. という文のあるペアが採用して、次のようなダイアローグを作りました。

A: 自転車貸してくれる?

B: うん、いいよ。でもどうしたの?

A: 自転車が盗まれたんだ。

B: えー、そうなの。いつのこと?

A: 昨日の夜だと思う。

B: そうか、でも出てくるといいね。

A: うん。

自然な日本語は、生徒にとって英語で表現しにくい場合が多いので、英語で表現しやすいように和文和訳をすることを勧めています。和文和訳とは

A: 自転車貸してくれる?

→あなたは私にあなたの自転車を貸してくれますか?

B: うん、いいよ。でもどうしたの?

→はい、確かに、何が起こりましたか?

という具合です。

また、「自転車が盗まれた。」という表現は have

+物+過去分詞 を使って表現する絶好のチャンスです。うまくいけば、「私は財布を盗まれた。」という典型的な例文と生徒がよくやる間違いを提示することもできます。

次に、ダイアローグの内容に関連する有用な表現や生徒の知らなさそうな表現を提示することも忘れてはいけないポイントです。自転車に関連する表現として「パンクする」を知らない生徒はたくさんいますので、get a flat tire という表現を教えるとともに、自力で表現するのであれば、パンクしている状況をどう表現するかということも考えさせます。かなり無理はありますが、「私の自転車がタイヤに問題を持っています。」という表現はどうだろうなどといろいろな角度から物事を見る訓練をしていきます。

その他、教科書のどの文を採用しても生徒は案外簡単にダイアローグを作っていきます。あらためてわかったことは、生徒の想像力は我々教員が想像している以上にはるかに素晴らしいものであるということです。

It is a little cold for hiking. I wish it were warmer. という文で、あるペアが次のように会話文を展開しました。

A: ハイキングには少し寒いな。もっと暖かければいいのに。

B: 朝は寒いけど、お昼には結構暖かくなるみたいだよ。

A: どうしてそんなこと知ってるの?

B: 昨日の天気予報で言ってたから。

さて、ダイアローグ作成に授業の中では10分から15分を与えますが、この時間では完成しませんので、生徒には放課後などを利用して完成せるように指導します。

生徒たちはペアで活動するので、英語があまり好きでない生徒も友だちに迷惑をかけるわけにはいかず休憩時間などを有効に活用することになります。

完成したダイアローグは、AET が添削します。JTE は AET が添削したものに目を通してさらにアドバイスなどが必要であれば加筆して生徒に返却します。

次に8人(4ペア)のグループ内での発表となります。返却されたダイアローグをペアで暗記し、グル

ープ内でプレゼンテーションします。そのプレゼンテーションを相互評価してそれぞれのグループ代表を決めます。その際の選考基準は次のとおりです。

### Contents(内容)

### Delivery(話しぶり)

### Pronunciation & Intonation(正しい発音と抑揚)

### Loud and clear voice(声の大きさ・明瞭さ)

について、それぞれ5点満点合計20点満点です。すべてのペアが発表を終えて、点数を出しますが、点数だけで順位を決めるのではなくグループの代表としてふさわしいかを生徒同士で話し合います。40人のクラスであれば、5ペアがファイナルステージに進むことになります。自分たちで作ったダイアログを暗記して人前で発表するとその文章が自分のものになります。ダイアログの出来栄については、ルーブリック(質の評価指標)に照らし合わせてS～Cで評価します。

評価	評価項目
S	単純なS+V構造の文に場所や時を表す副詞句を使ってよりわかりやすい文になっている。会話の流れが自然でよどみなく展開されている。さらに会話の展開がみられる。
A	単純なS+V構造の文に場所や時を表す副詞句を使ってわかりやすい文になっている。会話の流れが自然である。
B	単純なS+V構造の文を使って意味がわかる文になっている。会話の流れがある程度自然である。
C	単純なS+V構造の文を使って文章が2つは書けている。

このような授業を4月から11月まで約半年続けてきたところ、4月当初、英文を1文書くだけで10分程度かかっていた生徒たちが、先日の授業でいつも通りの課題(今回は受動態)を出したところ、次のダイアログを10分もかからずに書き上げました。話の展開に少々無理があり、英語そのものもまだまだ改良の余地はありますが、パートナーと相談しながら楽しそうに完成させました。ここで2つ紹介します。

A : May I use your car?

B : Sorry.

A : What have you done with your car?

B : I had some engine trouble yesterday, so it is being repaired at the moment.

A : I hope it will work well soon.

B : Thank you.

A : Have you ever seen the movie *Roman Holiday*?

B : Yes! Only once when I was a child. That black and white world attracted me.

A : Me, too! Was the woman who fell in love with Gregory Peck in *Roman Holiday* played by Audrey Hepburn or Ingrid Bergman?

B : Sorry. I don't know foreign actresses.

#### 4. おわりに

今回は英語表現Ⅱの授業展開に特化して話を進めました。英単語の音読はコミュニケーション英語Ⅲでも同様に授業冒頭の10分間、毎日行っています。

また、コミュニケーション英語Ⅲにおいてもレッスンが終了するごとにそのレッスンの主題となったことについて自分の意見を書かせています。

余談になりますが、今年の新しい試みとして、コミュニケーション英語Ⅲで未読のレッスンの本文全部を20分程度で読んでパラグラフの概要をメモさせるようにしています。このメモ書きのねらいは、読み返すときの当たりをつけるためのものであることを生徒にしっかり伝えてやらせます。ときには、ともに学ぶ姿勢を生徒に見せるために、生徒と一緒にメモ書きをやってみることもいいのではないかと感じています。

教室は生徒の反応がその場で伝わってくる場所です。その指導法が自分の生徒に合っているのかそうでないかはすぐにはわかることです。そういう意味では、学校で授業ができるということは幸せなことだと思います。

今回掲載した英単語の音読とダイアログ作りは、私がかかわっている生徒には合っているようです。